

北京師範大学交換留学の活動報告

人文社会科学研究科

小川菜実子

今回の活動報告では、北京での生活についてお伝えしたいと思います。大きく 3 つに分けて、お金に関すること、交通、食生活についてです。このすべてにおいて、共通して言えることは、現金を使わないということです。私は普段現金を持ち歩きませんし、周りの友達のほとんどもそうしています。この点を見て言うと、日本よりも進んだ生活スタイルを体験できていると思います。

まず、お金に関すること、と大きくくくってしまいましたが、これが一番の大きなポイントです。北京に来てすぐに銀行の口座を開けましたが、そのときにネットバンキングの説明を受け、それ以降はネットで残高を確認したり、送金したりしています。銀行に行く必要はほとんどありません。通帳もないので、ネットで履歴を確認します。また、支付宝というアプリをダウンロードすると、銀行からお金を引き出すことができ、ネットショッピングも指紋やパスワードさえあればすぐにできてしまいます。また、店頭で買い物をする際も、QR コードをスキャンすれば、支払いのページに飛び、そこで金額を入力すると支払うことができるし、バーコードのようなものを表示すれば、店員さんがそのバーコードを読み取って、自動的にスマートフォンから支払うことができます。Wechat にも同じようなシステムがあります。

支付宝や wechat がとても便利なのは、同じようにアカウントを持っている人同士では、すぐにお金のやりとりができるということです。また、割り勘などの計算も瞬時にできるため、現金での細かいやりとりはほとんど起こりません。したがって、私たちは、普段ほとんど現金を目にしません。お金の管理はスマートフォン上で、数字を見て管理します。この習慣に慣れてしまったのは、少し怖いけれど、本当に便利で、家計の管理も簡単なものでいつか日本もこのような習慣が当たり前になるだろうと予想しています。

次に、交通についてです。今回話すのは、北京市内の移動についてです。北京市内で観光をするとき、私たちが必ず使っているのが、高德地図や百度地図という地図アプリです。目的地を入力すると、地図上に表示され、タクシー・自動車・バス、地下鉄・自転車・徒歩、それぞれでどれくらい時間がかかるか、またその乗り方などをすべて表示してくれます。タクシーもアプリから運転手さんを呼ぶことができますし、乗車賃のめやすも表示してくれます。「滴滴」というシステムを選ぶこともでき、一般の方が送ってくれることもあります。バスや地下鉄は、「交通カード」というプリペイドカードを持っていれば、バスも地下鉄も乗れます。最近では、外国人向けにはまだないようですが、交通カードのアプリも出たそうで、カードすら必要なくなっているのかもしれませんが。(SUICA や ICOCA のように、iPhone のなかに交通カードを登録することはできます。) 自転車も、北京ではシェアバイクがそこら中にあるため、「自転車を探す」という機能もその地図アプリに入っています。このような地図アプリさえあれば、どこにでもいけると思われます。

また、私が強調したいのは、交通費の安さです。例えば、北京師範大学から空港まで行くとします。タクシーでは、40 分ほどかかりますが、乗車賃は 1200 円ほどです。バスや地下鉄を使うと、1 時間かかり、乗車賃は 600 円ほどです。バスは、カードを使うとほとんど 16 円から 48 円の間で使えますし、地

下鉄も環を跨がなければ 54 円ほどで移動できます。自転車は、乗っている時間で計算されますが、新しいものだと 30 分 16 円で乗れます。キャンペーンがあると無料で乗れることもあります。

最後に、食生活についてです。ここでは、食堂とデリバリーについてお話します。食堂の料理は、本当においしくて安いと思います。食堂は、建物で数えれば 5 棟あります。どこに行っても、種類が豊富でぜんぜん飽きません！3 か月通い続けると、やっぱり好きなものを食べる頻度が高まりますが、ときどきは好奇心から新しいものに挑戦したいという意欲がわきます。半年いてもきつとすべての料理を制覇することは難しいと思います。お腹いっぱい食べても、240 円ほどで済むし、普段なら、160 円ほどで済ませられます。ここでの支払いは、学生カードに内蔵されているプリペイドカードしか使えません。ただし、チャージはスマートフォン上でできます。カードの中のお金がなくなってもすぐに補充できるのでとても便利です。



次に、デリバリーについてです。学生たちはよく、デリバリーを頼みます。これも、アプリがあります。私が使っているのは、「美团外卖」というアプリですが、友達は何のアプリも使っているみたいです。アプリで食べたいものを探し、注文すると、約 1 時間で配達してくれます。時間指定もできるので、お昼休みの時間に指定し、部屋に戻る前に受け取って部屋で食べるという友達もたくさんいます。アプリで検索できるのは、さまざまなレストランの料理で、いろんな種類があり、日本料理を食べたいと思ってもすぐに注文できます。値段は食堂よりも高くなるのがほとんどですが、食べたいものが食べられる、という点においては、特に留学生にとってとても魅力的です。また、このシステムの中で素晴らしいのは、届けてくれるドライバーと直接やりとりをして受け取ることができるという点です。届くころに電話があり、時間と場所の確認をします。はじめは中国語が聞き取れなかったりしてドキドキしていましたが、慣れてくると聞き取れなくてもなんとなく返事ができるし、質問があったら尋ねたりして、校外の人と話をする機会にもなっています。

以上が、私が伝えたい北京での留学生活のあり方でした。日本と同じ部分もことなる部分もたくさんありますが、便利であるということはやはり感じざるを得ません。このような習慣が生活の一部となり、当たり前になっていくことも、留学の良さなのかもしれません。言語を習得するということは、もちろん言語的な部分がとても大切ですが、その言語が話されている土地に行き、文化を共有した上で、ことばの意味や会話の背景を感じ、使ってみて試行錯誤を重ねるといことがとても大切だと思います。北京に来て 3 か月、このような思いを感じながら、授業を受けたり、友達と話し合ったり遊びに行ったりしています。あと 1 か月しかいられないのはなんだか寂しいけれど、残された時間を有意義に過ごしていきたいと思います。